



社名の由来である
“若きウェルテルの悩み”のヒロイン
「シャルロット」

株式会社ロッテ

2022年7月28日(木)

イベントレポート

怪我の防止やパフォーマンス向上には“噛むこと”が大切！ アジアリーグアイスホッケー所属「レッドイーグルス北海道」の本拠地で **ロッテ噛合取組を実施**



噛むチカラを測定する山田虎太郎選手（右）と東京歯科大学・武田友孝教授（左）

株式会社ロッテ（代表取締役社長執行役員 牛腸栄一）は、1948年の創業以来ガムをつくり続け、“噛むこと”に取り組んできました。2018年には、ロッテが社会のためにできることは何かを考え、新たに「噛むこと研究部」を設立。様々な自治体や研究機関・企業と連携し、“噛むこと”を通じて世の中に貢献したい、最適な“噛む”を提供することで皆さまの力になりたい、という思いを掲げて活動しています。その活動のひとつとして、現在、様々なスポーツチームやアスリートに向けて、“噛むこと”についてのサポートをしています。

去る7月22日（金）、アジアリーグアイスホッケー所属「レッドイーグルス北海道」の本拠地である白鳥王子アリーナ（北海道苫小牧市）に東京歯科大学 口腔健康科学講座 スポーツ歯学研究室の武田友孝教授を招聘し、レッドイーグルス北海道の選手、関係者にスポーツにおける“噛むこと”の大切さをテーマにした口腔健康セミナーと選手の咬合力と左右バランスを測る、噛むチカラの測定を実施いたしました。

さらに、選手には噛むトレーニングツールとして、個々の咬合力、嗜好を考慮し3種のトレーニングガムを提供いたしました。



レッドイーグルス北海道の選手にお話する武田教授



レッドイーグルス北海道のロゴが入った専用トレーニングガム



社名の由来である
“若きウェルテルの悩み”のヒロイン
「シャルロッテ」

<イベントの様子>

冒頭では、ロッテ 営業本部 北海道担当の青木武俊より“噛むこと”を通じて、選手の皆さんのパフォーマンス向上、そしてチームの永続的な発展に寄与していきたい。また、チームへの取り組みを通じて地域社会を活性化していきたい」と本取り組みについて表明しました。続いて、ロッテ 中央研究所 噛むこと研究部の研究員より、長く噛み続けることができるというガムのユニークな特長を活かし、“噛む”トレーニングのツールとして様々なスポーツのアスリートにガムを提供し、“噛むこと”を通じてサポートを行ってきた実績などを紹介しました。

そして、東京歯科大学 口腔健康科学講座 スポーツ歯学研究室の武田友孝教授による口腔健康セミナーを実施。スポーツパフォーマンスや怪我の防止に“噛むこと”が重要であること、食事をよく噛んで食べることのメリット、その他様々な噛むことの効果についての講義がありました。選手たちもみな真剣な面持ちで武田教授の講義に耳を傾けていました。

セミナーを受け、レッドイーグルス北海道の竹俣一芳代表取締役社長から「スポーツにおいて噛むことが大切だということ。そして、選手には噛むチカラを鍛えることによって、まだ伸びしろがあると知ることができて良かった」という感想と、チームのキャプテン橋本僚選手からは「スポーツにおけるパフォーマンス向上や怪我の防止に“噛むこと”が重要であるとわかり大変勉強になった。これから、噛むチカラを強化してチームのパフォーマンスを高めていきたい」という今シーズン、リーグ連覇へ向けた頼もしい抱負をいただきました。

続いて場所を移し、デンタルプレスケールⅡという器具を使用して、選手の咬合力と左右のバランスを測定。武田教授からは「どの選手も左右の噛むバランスは比較的とれていました。ガムを噛むことで、噛むチカラを鍛えていくととっても良いのでは」とアドバイスがありました。

最後、測定を終えた選手に、“噛む”トレーニングのツールとして、レッドイーグルス北海道専用のトレーニングガムを提供しました。チームロゴをあしらったオリジナルのガムを手に選手たちは「早速ガムを噛み練習に取り掛かります」と笑顔で話していました。



挨拶をするロッテ青木（左）



武田教授からのお話で“噛む”動きを確認する選手たち



レッドイーグルス北海道・竹俣代表取締役社長



セミナーの感想を話す橋本キャプテン

■この件に関するお問い合わせ先

株式会社ロッテ

TEL:0120-302-300(フリーダイヤル)

参考情報

社名の由来である
“若きウェルテルの悩み”のヒロイン
「シャルロッテ」



ロッテ「噛むこと研究部」の基本活動

“噛むこと”の必要性や、“噛むこと”がもたらす意外なチカラは、
科学の進歩によって、明らかになってきています。
また、ガムは一定の強さ、リズムで噛み続けることができる食品です。

そこで、ロッテ「噛むこと研究部」では、“噛むこと”を最も効果的に体験できるツール＝ガムと捉え、
様々なアスリートの方々に、ガムを噛むことを取り入れていただき、
“噛むこと”で身体の運動パフォーマンスに寄り添い、アスリートのサポートをしてまいりました。



● 噛合取組 (※)

東京歯科大学 口腔健康科学講座 スポーツ歯学研究室の武田友孝教授監修のもと、噛合取組をスポーツチームやアスリートに実施。(※噛合取組とは以下①～③の一連を指す)

①. 口腔健康セミナー

- ・口腔健康の知識習得
- ・咀嚼（噛むこと）のさまざまな効果・知見についての講義

②. 噛むチカラ測定

- ・咬合力（噛むチカラ）【単位：N（ニュートン）】の測定
- ・左右バランスの測定

③. 噛むトレーニング（4ページ目参照）

- ・噛むチカラをトレーニングするツールとして噛み続けることができるガムを推奨
※噛合バランスが左右50：50になることが理想のバランス
噛合バランスに応じて、左右いずれかに比重をかけてガムを噛むことを指導



社名の由来である
“若きウェルテルの悩み”のヒロイン
「シャルロット」

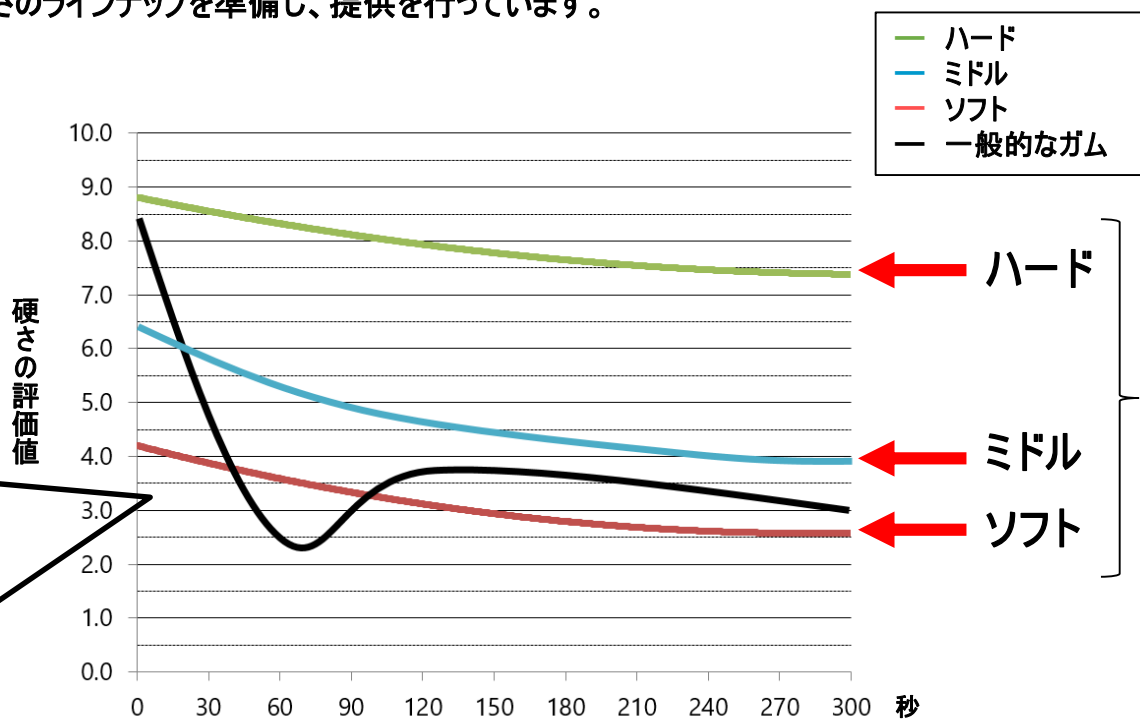
ロッテ「噛むこと研究部」の研究活動

●アスリート専用 トレーニングガム

一般的なガムは、噛んでいくにつれて、硬さが大きく変化するのに比べ、
アスリート専用トレーニングガムは、噛みはじめからの硬さの変化が少ない特別な設計となっています。
噛んでいる間中、しっかりとした噛み応えが続くことで、噛むことのトレーニングに適しています。

また、すべてのアスリートの意向に合わせた硬さのガムを提供するために、ソフト・ミドル・ハードの
3段階の硬さのラインナップを準備し、提供を行っています。

一般的なガムは噛みはじめ
60秒間での軟化が大きい



トレーニングガムは噛みはじめ
からの硬さの変化が少ない

20段階(0.5刻み)の食感(硬さ)の評価を専門パネル*¹を用いて、80回/1分間のペースで計5分間ガム咀嚼し、
6秒ごとに硬さを評価するTI法*²で評価を行った。

*1 ガム官能評価パネルとして訓練した男女7名

*2 経時的な強度変化を評価する官能評価手法

●機器分析による硬さの評価



INSTRON®
The difference is measurable

万能材料試験機(INSTRON社の6800シリーズシングルコラム)
を活用し、ガムの硬さを測定・管理している。
専門パネルの官能評価に加え、機器分析による数値データを活用し、
アスリートに合わせた硬さのガムを提供している。



社名の由来である
“若きウェルテルの悩み”のヒロイン
「シャルロット」

講師プロフィール

■ 武田 友孝（たけだ ともたか）



●所属

東京歯科大学 口腔健康科学講座 スポーツ歯学研究室 教授（歯学博士）

・日本オリンピック委員会 強化スタッフ（医・科学）

バレーボール競技、レスリング競技

・日本スポーツ協会公認スポーツデンティスト

・日本スポーツ歯科医学会認定医

・日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ医

・関東ラグビーフットボール協会登録者障害見舞金審査委員会委員

●略歴

1987年 日本大学大学院歯学研究科修了

1990年 日本大学歯学部補綴学講座 助手

1999年 日本大学歯学部補綴学講座 講師

1999年 東京歯科大学スポーツ歯学研究室 講師

2003年 東京歯科大学スポーツ歯学研究室 准教授

2018年 東京歯科大学スポーツ歯学研究室 教授

●主な所属学会

日本補綴歯科学会、日本全身咬合学会

日本顎関節学会、日本スポーツ歯科医学会

●研究テーマ

・マウスガード・スポーツ外傷についての研究

・口腔機能とスポーツパフォーマンスについての研究

●主な受賞

2005年 FDI/Unilever Award受賞